



THE RECORD

2004.06
No. 535

Essay ～レコードと私～

加山 雄三 (俳優、シンガー・ソングライター)

Special Feature

IFPI Report

2003年世界音楽売上

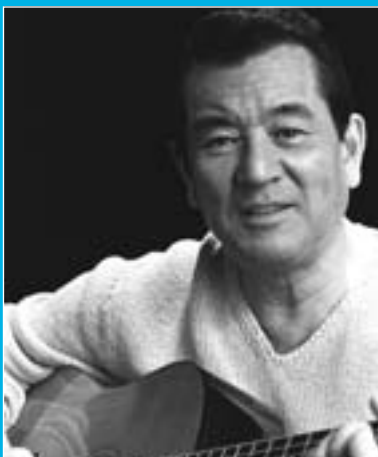
● 知っておきたいISRCの基礎知識

RIA
Recording Industry Association of Japan

社団法人 日本レコード協会

加山 雄三

(俳優・シンガー・ソングライター)



加山 雄三 (かやま ゆうぞう)

1937年神奈川県出身。1960年映画「男対男」でデビュー。翌年からの「若大将」シリーズは、70年まで続く大ヒットとなり、スターの地位を不動のものとする。黒沢明監督の「椿三十郎」「赤ひげ」にも出演した。一方、「しあわせだなあ」の名セリフが入る自作の歌「君といつまでも」は、第8回日本レコード大賞・特別賞を受賞した。現在では、芸能界きってのナイスミドルとして、俳優・音楽活動はじめ、絵画、執筆など多方面で活躍中。

加山雄三オフィシャルサイト：
<http://www.kayamayuzo.com/>

あの当時流行語大賞があれば間違いなく大賞を射とめていたと思う。鼻を掻きながら「しあわせだなあ」と言う台詞がいつしか僕の口癖のように思われていた。確かに「君といつまでも」は日本レコード史上初の350万枚突破シングルというありがたい記録を打ち立てた。だから幸せじゃないはずがない。ましてや自作自演でのヒットだから嬉しさもひとしおだ。当時日本では、シンガー・ソングライターと名乗るモノはまだいなかったと思う。それなのに新人俳優で音楽にはズブの素人の作った楽曲に惚れ込んでくださり、作詞家の岩谷時子さんや渡辺プロの(故)渡邊晋社長に強力にプッシュしてくれた森谷司郎さんがいなければ今の加山雄三はなかったと思う。森谷さんは「ハワイの若大将」の助監督で、後に僕の主演映画「僕の恋人」「八甲田山」や「弾痕」の演出も手がけてくださった方だ。こういう方々の後押しがあってシンガー加山雄三とソングライター弾厚作がこの世に誕生した訳だ。僕のペンネームは祖母が占いで貰ってきた幾つかの中から選んだものだ。その中に尊敬する團伊玖磨、山田耕作両先生の名前が入っていたのだが、字はもちろん違っていたのでそのまま付けさせていただいた。僕の作る楽曲にはすべて「Kナンバー」がつけられている。モーツァルトのケッヘル番号にあやかったものだが僕の場合は加山もしくは厚作の「K」だ。「君といつまでも」が僕の作家デビュー曲だと思っている方々も多いようだが、実は記念すべき処女作K-1はB面であった「夜空の星」なのだ。中学2年の時にピアノに向かって何となく指を動かしていたら、とあるメロディが浮かんできた。それが後に「夜空の星」となったのだ。では「君といつまでも」は何番かと言えばK-18・・・文字通り僕のおはことなったのだ。

「レコードと私」というテーマで「しあわせだなあ」と思う3つのことをあげて欲しいと宿題を出されたので色々考えてみた。実は4月に僕は67歳になった。これだけ長く現役をやっていると嬉しいことも数多くあったが、辛いこともそれ以上あったと思う。しかし過去10年に限って3つあげるとするならば、1つ目は丁度還暦を迎えた1997年のことだった。今では当たり前になってしまったトリビュートアルバム「日本初の作品を、僕の為に日本を代表する素晴らしい20組のアーティストたちが作り上げてくれた「加山雄三トリビュートアルバム 60 CANDLES」」。僕は今まで自分の楽曲は自分でお墓に持って行くしかないと思っていたのに、これほどまで愛されていたのかと思うと本当に感動の気持ちで一杯になった。

2つ目は2000年にデビュー40周年を迎えたのだが、それを記念してなんと僕のオリジナルアルバム38タイトルをすべて24ビットのデジタル・マスタリングで発売してくれたことだ。この時勢に勇気あるメーカーの判断だったと思うが、歌手加山雄三としては嬉しい限りだ。そしてそのCDを喜んで手にしてくれたファンの皆さんにも本当に感謝したい。

そして3つ目はアルバム「ALL BY MYSELF」を5月にリリースできたことだった。これは僕の長年の夢がようやく実現したものだ。すべての楽器とコーラスを全部一人でレコーディングできないかというとてもつむない「夢」だった。学生時代に父(上原謙)がどこからか手に入れてきた2台の録音機材を駆使して多重録音などをしていた事を懐かしく思い出した。今、できあがったばかりのこのアルバムを聴いてまた「しあわせだなあ」と鼻を掻いている。

企画・構成：木崎 徹

表紙の楽器

ダウン・チェン

チベット・ホルンとも呼ばれ、口唇を振るわせて音を出す楽器としてはスイスのアルペン・ホルンと並び世界最大級の吹奏楽器である。チベット仏教において音楽は神仏を供養する大切な役割をもっている。そのため寺院での勤行や重要な儀式の際には必ず合奏が行われる。「ダウン・チェン」(大笛)は真鍮製で、地を這うような重低音の響きを持ち、「ギャリン」(中笛)や「トゥンカル」(法螺貝)とともに演奏される。

Contents

Special Feature	
IFPI Report 2003年世界音楽売上	2
Focus	
知っておきたいISRCの基礎知識	6
平成16年度事業計画	9
Topics & Information	11
Monthly Production Report	13
Gold Album+...認定	14

IFPI Report

2003年世界音楽売上

今回の特集では、4月7日にIFPI（国際レコード産業連盟）が発表した、「2003年世界音楽売上」をレポートします。

2003年の世界音楽売上は、金額で対前年比7.6%減の320億米ドル、数量で6.5%減の27億枚・巻となりました。オーディオ全体では、金額で9.9%のマイナスでしたが、67%増を記録した音楽DVDに牽引されるかたちで、音楽ビデオ全体では46.6%の伸びを示しました。また、CDアルバム、シングル、カセットの売上金額は、それぞれ9.1%、18.7%、27.4%のマイナスとなっています。

アメリカ、イギリスが回復傾向を見せる一方で、ヨーロッパ各国の落ち込みが目立つなど、国や地域ごとのばらつきが見られました。製品別では、音楽DVDをはじめとする新しいメディアの勢いが、明確に現れるようになってきました。



「2003年世界音楽売上」レポートの要約（英語のみ）は、下記のIFPIのサイトでご覧いただけます。（ただし、完全版冊子の入手は有料です）

●URL: <http://www.ifpi.org>

1 地域別音楽売上

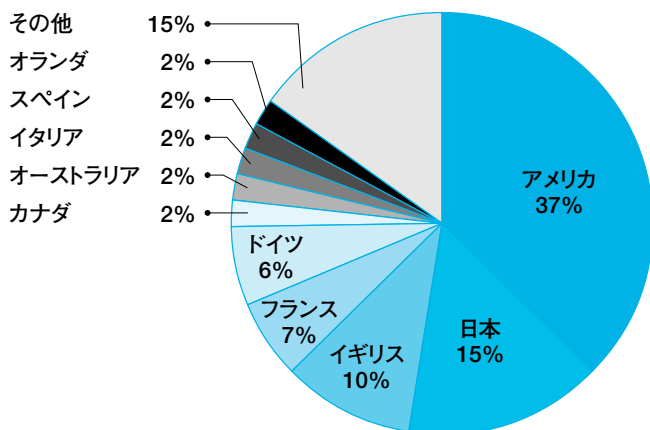
■アメリカ、イギリスでは回復傾向

2003年の世界音楽売上で、アメリカが占める割合は37%（世界第1位）、イギリスは10%（同第3位）でした。

2003年下半期、アメリカの音楽市場は回復に向かい、特に第4四半期の急速な伸びによって、通年では金額で対前年比6%マイナス（6月時点では、同12%マイナス）まで回復しました。これは、ボーナストラックやボーナスDVDによって、CDアルバムの売上げが盛り返したことによるものです。

イギリスにおけるCDアルバムの売上げは、第4四半期が特に好調で、年間を通じて、数量で対前年比5.6%（金額1.4%）の増加となりました。小売りが好調だったことに加え、インターネット販売が占める割合も2002年の5.5%から6.6%に伸びています。しかし、シングルの落ち込みは大きく、数量で対前年比31%のマイナスとなりました。また、DVDが金額で95%の増加を記録したものの、VHSの急激な落ち込みが音楽ビデオ全体の足を引っ張る結果となりました。

● 2003年世界売上 上位10カ国



■大幅な落ち込みとなったヨーロッパ各国

ヨーロッパの主要マーケットは、2003年も大幅な売上げ減となりました。

特に、ドイツでは6年連続のマイナスとなり、対前年比でも過去最悪の19%減（金額）となりました。減少の主な要因は、CD-Rコピーと違法な音楽サイトからのダウンロードです。GFK社の市場調査によると、2003年にコピーされたCD-Rは3億2500万枚（2002年：2億6000万枚、2001年：1億8000万枚）と推計されています。

世界第4位の売上げ実績を持つフランスでは、2002年まで2年連続のプラスでしたが、2003年には金額で14.4%のマイナスとなりました。2002年までの成長は、ローカルレパートリーの好調に支えられたものでしたが、2003年の市場規模は、2000年と同規模まで縮小しました。

ベルギー、デンマーク、ギリシャ、アイルランド、ポルトガル、スウェーデン、スイスの各国は、2003年に金額で2ケタのマイナスとなりました。

ヨーロッパ市場に見られるプラスの徴候としては、音楽DVD市場の伸長およびロシア等の東欧各国で、カセットからCDへのシフトが進展していることが挙げられます。

■一部に明るい兆しが見られる アジア・パシフィック

2003年のアジア全体の売上げは、数量で7.5%、金額で9.8%のマイナスとなりました。

中国では、海外の音楽に興味を持つ若年層人口の増加により、3年連続プラスの21.7%増（金額）となりました。しかし海賊版は、依然として高い割合を占めています。

オーストラリアは唯一、ローカルレパートリーとDVDの好調に支えられて、売上げが増加しました。全体の11%にあたる音楽DVDは、金額で100%を超える伸びとなりました。

■低迷するラテンアメリカ

ラテンアメリカ全体の音楽売上は、金額で14.4%、数量で10.3%のマイナスとなりました。

海賊版の横行に加え、ラテンアメリカ地域の経済が引き続き停滞していることが、主な要因と考えられます。多くの小売店が閉店に追い込まれ、現地のレコード会社では人員削減を余儀なくされています。また売り上げ枚数の減少を受けて、各国の認定基準が引き下げられました。

● 2003年地域別 音楽売上推移

	対前年比増加率		売上総額 (十億米ドル)
	数量	金額	
世界合計	-6.5%	-7.6%	32.0
北米	-7.4%	-5.9%	12.5
ヨーロッパ	-5.3%	-8.7%	11.8
EU	-6.2%	-9.6%	10.6
アジア	-7.5%	-9.8%	5.8
アジア(日本を除く)	-9.4%	-13.2%	0.9
ラテンアメリカ	-10.3%	-14.4%	0.8
オーストラレーシア	7.6%	4.5%	0.8
中東	-15.3%	-9.1%	0.1

備考：音楽ビデオを含む。2002年の数値は2003年の米ドルレートにもとづく。

● 主要10カ国の音楽売上推移

	単位：百万米ドル		
	2003	2002	増加率
アメリカ	11,848	12,609	-6.0%
日本	4,910	5,409	-9.2%
イギリス	3,216	3,211	0.1%
フランス	2,115	2,471	-14.4%
ドイツ	2,022	2,496	-19.0%
カナダ	676	696	-2.9%
オーストラリア	674	636	5.9%
イタリア	645	674	-4.4%
スペイン	596	658	-9.4%
オランダ	499	526	-5.1%

備考：音楽ビデオを含む。2002年の数値は2003年の米ドルレートにもとづく。

2 新しい音楽メディア

■デジタル音楽の着実な進展

合法オンラインサービスのカタログ数は増加しており、2003年にはアメリカで約50万曲、ヨーロッパで約27万5,000曲となりました。2003年のアメリカにおけるダウンロード販売金額は約3,000万ドルで、2004年3月には累計で約5,000万ドルに達すると見込まれています。また、ヨーロッパにおけるオンライン音楽サービスユーザー数は、約65万人となっています。

IFPIでは、デジタル音楽売上についてもデータ収集を進めており、2005年初めには売り上げの公表を開始する予定です。

■新リリースへ拡大するSACD、DVDオーディオ

2000年に発売が開始されたSACD、DVDオーディオは、当初、主要カタログの再発売に限られていました。しかし、2002年、2003年にはCDリリースと同時にSACD、DVDオーディオでも発売されるケースが増えつつあります。現在までに、全世界でDVDオーディオが700タイトル、SACDが1,900タイトル発売されています。

2003年の売り上げ数量は、SACDが390万枚、DVDオーディオが130万枚でした。

3 音楽DVD

■DVDがリードする音楽ビデオ売上

2003年の音楽ビデオ売上は、金額で対前年比47%増(音楽DVDは金額で67%増)となりました。

DVDの伸長によって、世界的にホームビデオ市場が復活を果たすとともに、VHSでは成し得なかった音楽

ビデオ市場が構築されました。2003年の音楽DVDの売り上げは、金額で67%、数量で79%とそれぞれプラスとなっています。

2003年の音楽DVD売上は18億ドル。オーディオを含む世界音楽売上全体のなかで、音楽DVDの占める割合は、2001年の3.2%、2002年の4%に続いて増加し、2003年には6.3%となりました。CDと比較すると割合は小さいものの、2004年以降も急速に拡大していくと予想されます。

2003年の音楽DVD売上(数量)は、60%がライブ映像、25%がベスト盤、残りの15%がドキュメンタリー、シングル、ビデオコレクションという構成でした。

DVD全体に占める音楽の割合

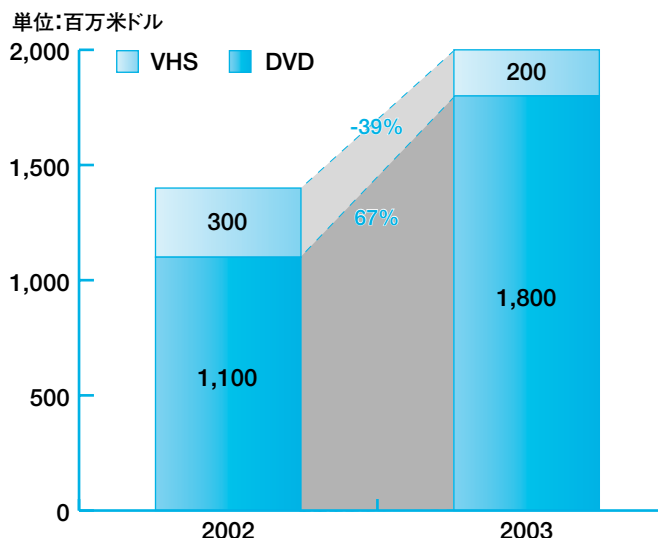
DVD全体(映画、テレビ、音楽、その他)で見た場合でも、音楽DVDの拡大が目立ちます。Screen Digest社およびIFPIのデータによると、DVD全体における音楽DVDの割合は、金額で7.1%(2002年は6.3%)と推計されています。

音楽DVDにおいて、金額の伸びが数量よりも大きくなっているのは、映画やテレビ番組のDVDに比べて、カタログ商品のタイトル数が少ないためと考えられます。

2003年には、「特典DVD付きCD」のリリースが増加し、DVD全体の約10%が、CDアルバムの特典として販売されました。イギリスやアメリカでCDアルバムの売り上げが増加したように、「特典DVD付きのCDアルバムは得である」という消費者意識の拡大につながると予測されます。

最近まで、音楽DVDに対する消費者の意識は比較的低いものでした。また小売店においても、音楽DVDが映画DVDと一緒に陳列されたり、CDから離れたところに置かれたりしていたため、消費者が音楽DVD商品を見つけにくい状況にありました。しかし、2002年後半からは、音楽DVDの店頭宣伝、目立つ場所への陳列、店内での音楽DVDチャート掲示といった小売店の努力が進み、状況は改善され始めています。

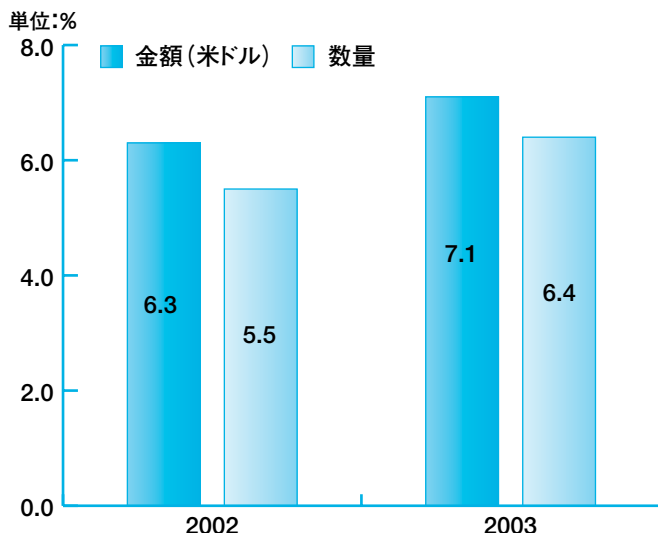
世界音楽ビデオ売上



主要10カ国の音楽DVD売上

	売上 (百万米ドル)	対前年比 増加率	各国売上に占める DVDの割合	世界DVD売上に 占める各国の割合
日本	521.6	39%	11%	28%
アメリカ	369.6	56%	3%	20%
ドイツ	157.6	101%	8%	8%
フランス	156.9	98%	7%	8%
イギリス	119.7	95%	4%	6%
オランダ	95.5	104%	19%	5%
オーストラリア	74.7	106%	11%	4%
カナダ	62.6	131%	9%	3%
ブラジル	44.8	45%	15%	2%
イタリア	31.5	294%	5%	2%

DVD市場における音楽DVDシェア



備考: 「Screen Digest Video Intelligence」およびIFPI資料による

知っておきたいISRCの基礎知識

音楽制作の管理に携わる方でISRCという言葉聞いたことがない方は、もう少ないかもしれません。ISRCが国際規格となってから18年、国内登録者の数は300近くとなり、国内製作レコーディングの実に9割近くに付与されています。今回は、国内外規格改正を受けて国内運用規格が改定されたISRCについて紹介します。

Point 1

ISRCの基本

ISRC(International Standard Recording Code)は、「国際標準レコーディングコード」と訳されていますが、その名の通り、世界共通のレコーディング識別コードです。ここで言うレコーディングとは“録音”ではなく“録音物”のことで、「音声のみで構成された完成品(オーディオレコーディング)」および「音楽作品のレコーディングに映像が付加されたもの(音楽ビデオレコーディング)」を指します。要は、CD等に収録されている音入りトラックや、音楽作品のプロモーション用映像、ライブ映像のことです。ISRCはそれぞれのレコーディングを識別するためのコードですから、同じ曲でもバージョンが違えば別のISRCが必要となります。逆に、1つのレコーディングを複数の媒体に収録する場合、そのレコーディングにはすべて同じISRCが付いていなくてはなりません。

重複を避けるため、ISRCを付番できるのは登録者に限られています。登録申請は、世界各地域の指定団体で受け付けています。我が国での唯一の指定団体が、私たち、社団法人日本レコード協会です。

Point 2

ISRCの現状

ISRCの目的は、レコーディングを識別することです。作品でも収録している商品でもなく「レコーディング」を識別する必要があるのは、レコーディング単位で利用・管理しようとするときです。具体的な利用事例を、以下の3つのケースに分けて説明していきます。

Case 1 レコーディングを特定するための検索キーとして

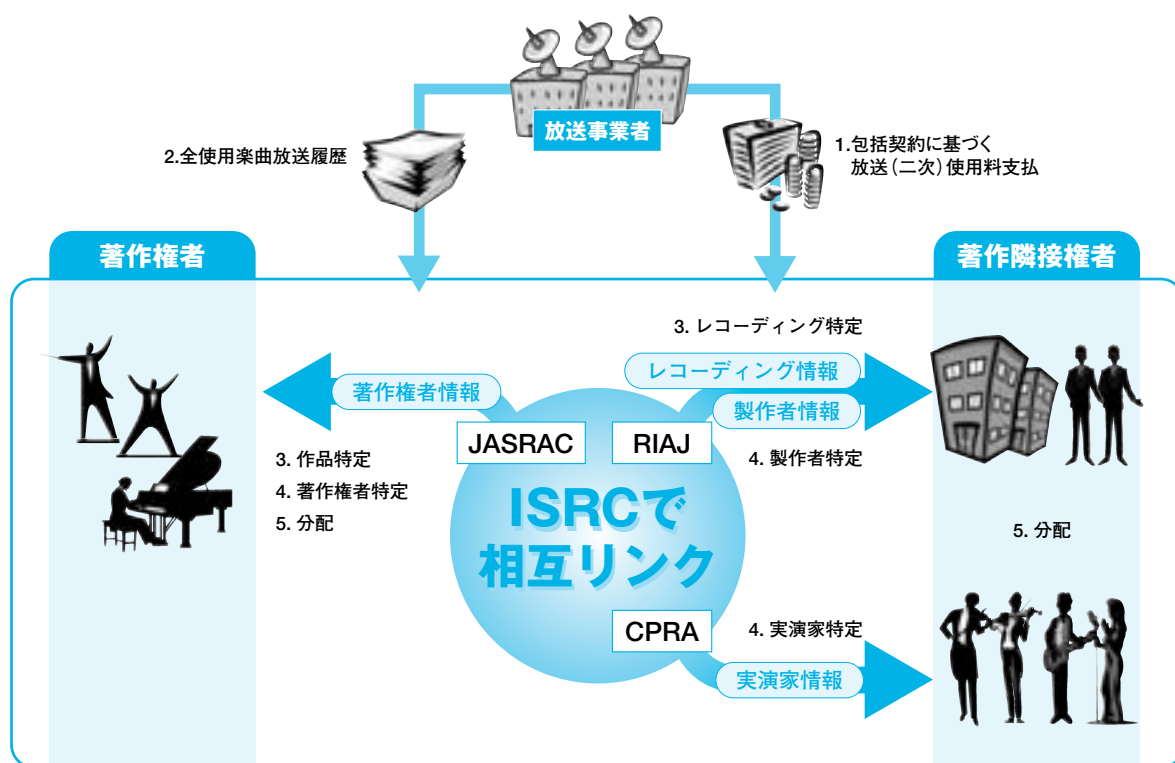
一般的に音楽を利用しようとするとき、その対象となるのはCDをはじめとする商品媒体に収録された「レコーディング」です。我が国の法律では、レコーディングが放送・有線放送で利用されたとき、著作権者には放送使用料、レコード製作者、実演家には放送二次使用料の分配を受ける権利が発生します。

音楽業界には「業界データベース」と呼ばれる大規模なデータベースがいくつも存在しますが、放送(二次)使用料の分配に関わる業界データベースには必ずと言っていいほどISRC情報用の領域が確保されています。つまり、ISRCが判明しさえすればこれらの権利者を特定できる、ということです。

我が国では現在、レコード製作者に対する分配はディスクレコードの正味出荷実績を基に算出されています。しかしこれも、数年後に控える「放送の完全デジタル化」を背景に変化しつつあり、現在、使用実績分配への移行が検討されています。使用実績分配では、分配先となる権利者の特定にISRCが重要な役割を果たすことになります。(図-1参照)

図-1

放送完全デジタル化による使用実績分配システム図



海外に目を向けると、香港では著作権管理団体の管理するデータベースのキーコードとしてISRCが利用されており、著作権使用料の管理や海賊版対策に活用されています。また、一般の放送局に対して放送二次使用料の請求ができない米国においては、サイマルキャスト、WEBキャスト、有料デジタルラジオ放送などの使用料徴収分配が行われていますが、そこでもISRCがキーとなっています。

Case2 音楽配信やWEB・店頭試聴音源等のキーとして

レコーディング単位で販売・利用されるシステムでは、「商品番号XXXX-YYYYのZトラック目」というレコーディング識別方法は効率的ではありません。なぜなら、同じレコーディングが複数の商品に収録されている場合、全く同じ内容のレコーディング情報やレコーディングデータそのものが、それを収録している商品の数だけ必要になるからです。また、全く同じ商品番号が複数の異なる商品に付けられているケースもわずかながら存在します。この場合、商品番号だけでは商品特定をすることができません。

音楽配信や試聴音源の管理キーとしてISRCを採用しているシステムは、国内外を問わずいくつもあり、その数は増加しています。

Case3 DVD-Audioにおける複製制御用キーとして

DVD-Audioフォーマットでは、セキュアなレコーダーへの複製可能回数をトラック単位で指定することができます。複製を可能にした場合、レコーダーはISRCを見ながら複製回数を管理します。言い方を変えれば、ISRCが付いていないトラックは複製不可かコピーフリーのいずれかしか選択できない、ということです。

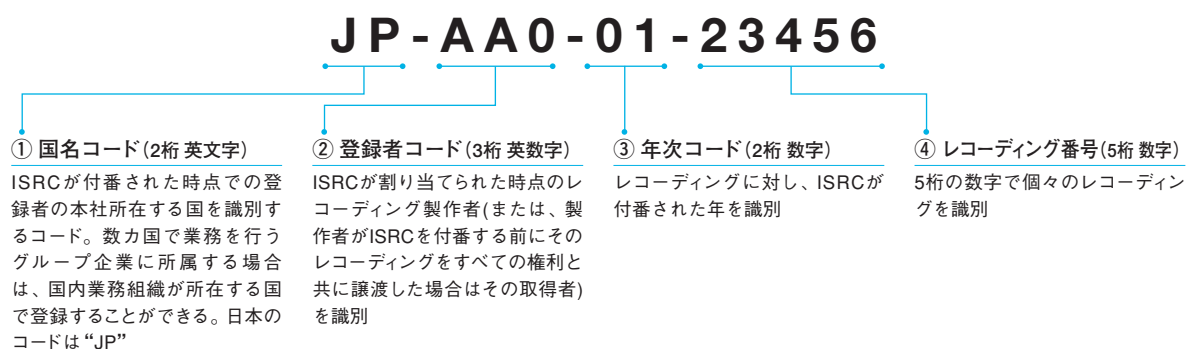
Point

ISRCを利用するには

製作したレコーディングにISRCを付番するには、登録者になる必要があります。ISRCは12桁の英数字で構成されており、登録者になることでそのうちの5桁が固定、残り7桁が自社管理領域となり、ISRCを発行・管理することが可能になります。(図-2参照) 本年4月の国内運用規格改定に伴い、登録要件はこれまでの「自社が権利を有するレコーディングを製作し、そのレコードを定期的に発売している事業者」から大幅に緩和され、音楽出版社や個人にまで裾野が広がられました。

図-2

ISRCの構成



さらに、この7月からは登録者でなくてもISRCを利用できるようになります。(図-3参照) レコーディングの詳細情報を提出していただくことで、当協会がそのレコーディングに固有のISRCを発行・付番するというものです。登録者と違って、ISRC発行までの手間や時間はかかりますが、ISRC管理の負担は軽減されるでしょう。

図-3

運用規格改定により、小規模製作者の選択肢が拡大



今回の規格改定を国内音源ISRC付番率100%実現への布石として、当協会ではISRCの普及・利用促進に努めていきます。また、未登録の国内レコード製作者は、レコーディング情報の有効利用や権利処理業務の円滑化の為に、ぜひともISRCの導入をご検討ください。

ISRC関連情報は <http://www.musicdb.jp/isrc/> にて公開中。
国内運用規格書も入手可能です。

平成16年度事業計画

当協会の平成16年度事業計画がまとまりましたので、その概要をご紹介します。

平成15年度は、「産業基盤を強固にする年」と位置付け諸施策を展開してきました。その中で「商業用レコードの還流防止措置」が創設に向けて大きく進展したことは特筆事項として挙げられ、平成16年度も引き続き立法化を目指し最重点施策として取り組んでいきます。

また、レコード産業の振興に向け、依然後を絶たない「P to P等の違法行為者へのエンフォースメントの強化」「多様化する音楽メディアの普及促進支援」等を中心とした諸施策を積極的に推進していきます。

さらに、指定団体としては、「放送二次使用料実績分配」に向けた取り組みを推進するとともに、放送番組の二次的な利用を促進するため「送信可能化権の集中管理」を開始します。

事業活動

[1]レコードの普及に関すること

1. 需要創造と次世代メディアの育成
日本ゴールドディスク大賞、音楽DVDキャンペーン、A&Vフェスタ出展などの事業を通じ、音楽需要創造と次世代メディアの育成を図る。
2. 複製制御技術導入の推進支援
セキュアな環境で音楽の複製を可能とする第三世代複製制御CDのルール作りを支援する。
3. オンラインミュージック市場の環境整備支援
ブロードバンド、モバイルネットワークを利用した音楽流通の環境整備を支援する。
4. ゴールド・アルバム他の認定と表彰
5. “音楽ギフトカード”の普及への協力
6. 音楽情報データの整備
 - ① “Music J-CIS” (Music Japan-Copyright Information Service) の構成団体としての音楽権利情報データベースを充実させユーザーへのサービスの拡大
 - ② 映像音楽ソフトのデータ構築
音楽用DVDビデオの市場拡大に備えて音楽映像商品の権利情報も包含したデータベースの構築を目指す。

7. レコード産業理解促進のための情報発信

商業用レコードの還流防止措置の創設、再販制度の弾力運用、次世代メディアの育成等に対する理解を促進するため広報活動を強化する。

8. アジア諸国における音楽文化交流の発展と拡大

[2]レコードに関する調査研究および統計に関すること

1. 各種業界統計の作成と発表
生産・正味実績等の産業統計データ集計解析システムの再構築を行う。
2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

[3]録音による芸術文化の保存に関すること

1. 文化庁芸術祭への協力
2. 日本プロ音楽録音賞の協賛

[4]著作権・著作隣接権等に関すること

1. レコード製作者の権利擁護のための法律改正運動の推進
 - ① 商業用レコードの還流防止措置の創設
国外指定地域での販売に限定してライセンスされた音楽レコードが日本国内に還流することを防止する措置を盛り込んだ著作権法の一部を改正する法律案が、平成16年3月5日の閣議決定を経て今国会に提出された。この法律案の成立を目指し積極的な活動を行う。
 - ② 私的録音補償金制度の見直し
データ用CD-R等による音楽録音の実態を踏まえ私的補償金対象機器および記録媒体の拡大を図るとともに、補償金単価の大幅な下落を防止するため、現行の定率方式でなく定額の私的録音補償金の導入を求めている。
 - ③ レコード保護期間の延長
米国、EUを中心としたレコードの保護期間延長の動きを注視しながら、日本においてもレコードの保護期間を発行後「50年」から「70年」に延長するため必要な活動を行う。

2. 著作権の知識や意識の普及・啓発に関する諸活動
不正コピー、不正アップロードに対する継続的な「啓発」活動と社会一般への認知、理解を目的としたキャンペーンを実施する。また、特に悪質な違法行為者には法的手段を講じる。

3. 海外の団体、機関との連携活動
IFPI (国際レコード産業連盟)、RIAA (アメリカレコード協会) 等、海外のレコード産業団体との連携・情報交換を積極的に推進する。

[5]レコードに関する出版物の刊行

1. 出版物の刊行
2. 協会ホームページでの情報発信

[6]レコード製作者にかかわる商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、総額の取り決めならびに徴収および分配

1. 二次使用料分配システムの見直し
 - ①放送事業者からの番組使用レコード報告に基づく放送実績分配の検討を開始する。
 - ②放送実績収集の補完技術であるフィンガープリント技術の検証を行う。
2. 送信可能化権の集中管理への取り組み
 - ①円滑な事業開始のための取り組み
放送番組の二次的な利用を促進するため、集中管理事業の開始に向け会員各社の協力および関係団体との調整を経て約款および使用料規程の作成等環境整備を行い、円滑な管理事業の開始を目指す。
 - ②使用実績による分配の実施
レコード使用報告に基づく実績分配システムを構築し使用料の委任者への適切な分配を目指す。

[7]レコード製作者にかかわる商業用レコードの、公衆への貸与にかかわる報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

[8]私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者にかかわる当該補償金の分配

[9]その他

1. 再販制度の弾力運用
良質で幅広い音楽を提供できる流通環境を今後も維持するため、再販制度が必要であり、ユーザーサービスの視点に立った弾力的な運用と、より円滑な流通基盤整備の推進に取り組んでいく。
2. レコード倫理審査会の開催
3. 業界規格 (RIS) の制定と改正
4. “ISRC” (International Standard Recording Code) の管理機関としての活動
5. 協会基盤強化
 - ①知的財産立国に向けた活動支援
国、日本経団連等の知的財産立国に向けた活動に参画し協会の一層の地位向上を目指す。
 - ②会員社拡大への継続取り組み
平成15年度に引き続き、協会運営基盤強化を目指し、会員社拡大等の諸施策を積極的に推進する。

運営体制

- ・ 総会
- ・ 理事会
- ・ 執行委員会
- ・ 法制委員会
- ・ 情報・技術委員会
- ・ 広報委員会
- ・ マーケティング委員会

本年度の事業遂行のため、関係諸官庁ならびに関係諸団体と常に連絡協調を保持しつつ業務を推進する。

以上

Topics & Information

WinMX等利用者へIMによる通知送付

当協会は、インターネット上でファイル交換ソフトを利用して音楽ファイルの不正アップロードを行っている個人ユーザーに対し、インスタントメッセージ(IM)を利用して、注意を喚起する通知の送付を3月2日から開始しました。ファイル交換ソフトを利用して安易に音楽CDの音源をアップロード(公開)しているユーザーに、その違法性を認知してもらいそのような不正行為を止めるよう働きかけるものです。市販の音楽CDから作成したMP3ファイルを、権利者に無断でアップロードする行為は、著作権法における送信可能化権の侵害にあたり刑事罰の対象となります。現在まで当協会からのIM送付数は130万通を超えています。(5月31日現在)

ネット上の音楽の不正利用は国際的にも大きな問題となっており、IFPI(国際レコード産業連盟)、RIAA(アメリカレコード協会)、BPI(イギリスレコード協会)等においても、啓発キャンペーンや訴訟を含めた積極的な対策が講じられています。また、IMを利用した通知は、イギリス、オーストラリア、オーストリア、カナダ、スウェーデン、デンマーク、ドイツ等で既に開始されており、今回の施策は、これらの国際的な対策と連動して実施されているものです。

当協会は、一昨年から、音楽の不正コピー、不正アップロード対策として、「Respect Our Music」キャンペーンをはじめとした様々な著作権に関する啓発活動を実施しています。また、ネットワークを利用した音楽の不正アップロードが判明した大学、企業等に対して、ネットワーク管理の徹底を要請してきました。さらに、昨年11月には、全国約1,200の国公立大学・短期大学に対して「大学ネットワークを利用した音楽著作物の著作権及び著作隣接権侵害行為の防止」を求め、ネットワーク管理を徹底するよう協力要請文書を送付しました。その結果、これに対する理解が進み、大学等のネットワークを利用した不正アップロード数は減少傾向にあります。

しかし、残念ながら、権利者の許諾を得ない音楽ファイルが不正にアップロードされるケースは後を絶たないため、今回、個人ユーザーを対象としたIMによる通知送付を開始しました。これにより著作権ルールの認知が高まり、今後このような不正アップロードは減少していくことが期待されますが、一方、一部の悪質なユーザーに対しては、法的措置も辞さない強い姿勢で臨んでいく所存です。

「第25回Techno-Legal Forum」開催

4月28日、当協会会議室において、「Techno-Legal Forum (TLF)」を開催しました。

TLFは2001年5月24日に第1回を開催して以来、著作権保護技術等の音楽産業に関する提案などを会員社に広く情報提供する場として、当協会の情報・技術部と法務部共催により原則として毎月開催してきたもので、今回で第25回を迎えました。

今回は、「次世代オーディオの最新動向」との大テーマを掲げ、「DVDオーディオ」、「スーパーオーディオCD」双方から講師を招き、次のテーマで行いました。

1. 「DVDオーディオの最新動向」

①「DVDオーディオ(ハード)の現状と動向」

／DVDオーディオプロモーション(DAP)協議会

②「DVDオーディオレコーディングの規格概要説明と実演」

／DVDフォーラムWG4

2. 「スーパーオーディオCDの著作権保護技術と制作現状」

／ソニー(株)

第1テーマでは、初めにDAP協議会から「DVDオーディオ対応プレーヤの需要予測、最新機種の紹介」や「DVDオーディオの著作権保護技術の概要」が説明され、続いてDVDフォーラムWG4から新たに制定された「DVDオーディオレコーディング(DVD-AR)規格」の概要説明とパソコンによるDVD-ARのシュミレーションデモが行われました。

第2テーマでは、ソニー社から、「スーパーオーディオCDの著作権保護技術」と「スーパーオーディオCD規格 Version 2.0」、「スーパーオーディオCDの制作過程、制作機器」などの概要が説明されました。

当日は、当協会会員社15社から30名以上の参加者があり、両テーマとも活発な質疑応答がなされ、次世代オーディオへの関心の高さがうかがわれました。

「ほんと? ホント! フェアin京都」開催

5月14～16日の3日間、不正商品対策協議会(ACA)主催の「平成16年度不正商品防止キャンペーン ほんと? ホント! フェアin京都」が開催されました。

ACAは、知的財産の保護と不正商品の排除を目的として

1986年に設立されました。今年で19回目を迎える「ほんとか？ホント！フェア」は、一般の方々に偽ブランド品、コピー商品、海賊版といった不正商品について意識を高めてもらう目的で毎年行われています。

14日に京都新聞文化ホールで開催された「知的財産シンポジウムin京都」では、篠崎将大氏((株)ワコール人間科学研究所所長)による基調講演に引き続き、白岩則信氏((株)ワコール法務部)、植月百枝氏(フリーアナウンサー)、前田哲男氏(不正商品対策協議会監事・弁護士)、辻崎俊徳氏(警察庁生活経済対策室課長補佐)をパネリストに迎えたパネルディスカッションが行われました。「偽ブランドと著作権侵害について」のテーマのもと、聴講に訪れた方々からも活発な質問が出されました。

また、15、16日には、京都駅前広場において、こどもセミナー、十二単着装、スペシャルトークショー、ほんもの・ニセモノステージクイズ、京都府警察音楽隊コンサート、タレントによるトークショーといったイベントのほか、不正商品について来場者に回答してもらう「クイズ&アンケート」が行われ、来場者は楽しみながら不正商品についての知識を学びました。



シンポジウムの様子

「知的財産保護官民合同訪中団」の中国訪問

5月10～12日、同訪中団は、北京市において、ハイレベルと実務レベルの2つのグループに分かれ、それぞれ知的財産関連の中央省庁を訪問しました。

国際知的財産保護フォーラムの宗国旨英座長(日本自動車工業会会長)を団長とする今回の訪中団は、以下の3点を重点項目として要請しました。

- (1) 再犯者対策強化を通じた抑止効果の向上
- (2) デッドコピーなど、デザイン模倣品対策の強化
- (3) 申請中の特許についての優先審査制度の導入

また、当協会の依田会長は、同訪中団の副団長として参加し、著作権関係を管掌する国家版權局と、経済・通商関係を管掌する商務部で、日本のコンテンツの保護・振興、市場参入への環境整備等への理解と協力を要請しました。

なお、今回の訪中団には上記のほか、民間から渡辺修日本貿易振興機構理事長、角田良平バンダイ副社長ほかの方々副団長として、また政府から中嶋誠経済産業省製造産業局次長、岩田悟志同省大臣官房審議官、津田博特許庁審査業務部長ほかの方々参加し、以下の中央省庁を訪問しました。

- 5/10 国家版權局、最高人民法院、国家工商行政管理総局、商務部
- 5/11 国家質量監督検験検疫総局、国家知識産権局、公安部
- 5/12 海関総署

IFPI中央理事会開催される

5月19日、ロンドンにおいて、IFPI(国際レコード産業連盟)の中央理事会が開催されました。

IFPIは、7月から翌年6月を年度として活動しており、今回の会議では、世界の重点地域における海賊版の集中取り締まり、インターネット上の違法音楽ファイル交換への対策、アジア市場の合法化への施策等が協議されました。

● 2004年5月会議メモ

- | | |
|------|------------|
| 5・10 | レコード倫理審査会 |
| 5・11 | 法制委員会 |
| 5・12 | マーケティング委員会 |
| 5・14 | 広報委員会 |
| | 情報・技術委員会 |
| 5・21 | 執行委員会 |
| 5・28 | 理事会・総会 |

Monthly Production Report

2004年4月度レコード生産実績

4月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比133%の2,766万枚、金額で前年同月比115%の291億円と大幅に伸長しました。内訳では、オーディオレコードが、CDシングル、アルバムいずれも好調で、数量で前年同月比131%の2,568万枚、金額で前年同月比114%の259億円となりました。また、音楽ビデオも、数量は前年同月比151%の198万枚、金額は前年同月比129%の31億円となりました。

● オーディオレコード

（数量：千枚・巻／金額：百万円）

			4月実績						2004年（1月～4月）累計					
			数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
シ ン グ ル	8cmCD	邦	2,483	10	302%	192	1	91%	7,741	7	357%	691	1	77%
		洋	772	3	257300%	60	0	71982%	1,179	1	45822%	112	0	9716%
		計	3,255	13	395%	252	1	120%	8,919	8	410%	803	1	89%
	12cmCD	邦	6,046	24	126%	4,277	16	113%	21,255	20	99%	15,845	12	99%
		洋	69	0	101%	59	0	103%	244	0	87%	201	0	87%
		計	6,116	24	125%	4,336	17	113%	21,499	20	99%	16,046	13	98%
	小計	邦	8,529	33	151%	4,470	17	112%	28,996	27	123%	16,536	13	97%
		洋	841	3	1219%	119	0	208%	1,423	1	505%	314	0	135%
		計	9,371	36	164%	4,588	18	113%	30,418	29	127%	16,849	13	98%
	12cmCD アルバム	邦	9,942	39	140%	13,182	51	139%	48,830	46	100%	74,274	58	100%
		洋	5,316	21	96%	7,414	29	88%	23,376	22	102%	32,846	26	100%
		計	15,258	59	121%	20,596	79	115%	72,206	68	100%	107,120	84	100%
CD 合計		邦	18,472	72	145%	17,652	68	131%	77,826	73	107%	90,810	71	100%
		洋	6,157	24	110%	7,533	29	89%	24,798	23	107%	33,160	26	100%
		計	24,629	96	134%	25,184	97	115%	102,624	96	107%	123,969	98	100%
アナログ ディスク		邦	109	0	378%	36	0	104%	496	0	388%	123	0	82%
		洋	5	0	88%	11	0	173%	73	0	348%	120	0	554%
		計	114	0	328%	47	0	115%	568	1	382%	242	0	142%
カセット テープ		邦	919	4	82%	680	3	86%	3,265	3	79%	2,538	2	78%
		洋	0	0	20%	0	0	9%	9	0	78%	6	0	70%
		計	919	4	82%	680	3	86%	3,274	3	79%	2,544	2	77%
その他		邦	6	0	82%	7	0	66%	58	0	111%	119	0	156%
		洋	15	0	36%	29	0	46%	92	0	70%	178	0	82%
		計	21	0	44%	36	0	49%	150	0	82%	297	0	102%
合 計		邦	19,506	76	140%	18,374	71	129%	81,645	77	106%	93,589	74	99%
		洋	6,178	24	109%	7,573	29	89%	24,972	23	107%	33,463	26	100%
		計	25,683	100	131%	25,948	100	114%	106,616	100	106%	127,052	100	99%

● 音楽ビデオ

		4月実績						2004年（1月～4月）累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD		1,883	95	171%	2,975	96	147%	10,070	95	107%	16,859	95	99%
LD・その他		54	3	52%	75	2	41%	280	3	67%	465	3	64%
テープ		42	2	39%	62	2	30%	197	2	27%	422	2	21%
合 計		1,979	100	151%	3,111	100	129%	10,548	100	100%	17,746	100	90%

● 音楽ソフト（オーディオ／音楽ビデオ合計）

		4月実績						2004年（1月～4月）累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ		25,683	93	131%	25,948	89	114%	106,616	91	106%	127,052	88	99%
音楽ビデオ		1,979	7	151%	3,111	11	129%	10,548	9	100%	17,746	12	90%
合 計		27,662	100	133%	29,059	100	115%	117,164	100	106%	144,798	100	98%

● ビデオ（含音楽ビデオ）

		4月実績						2004年（1月～4月）累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
DVD		10,386	95	105%	11,634	86	151%	40,615	94	130%	50,654	85	114%
LD・その他		54	0	42%	75	1	37%	327	1	58%	500	1	60%
テープ		467	4	61%	1,896	14	68%	2,152	5	62%	8,695	15	61%
合 計		10,907	100	101%	13,605	100	127%	43,094	100	122%	59,850	100	101%

● オーディオ／ビデオ合計

		4月実績						2004年（1月～4月）累計					
		数 量	構成比	前年 同月比	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同期比	金 額	構成比	前年 同期比
オーディオ		25,683	70	131%	25,948	66	114%	106,616	71	106%	127,052	68	99%
ビデオ		10,907	30	101%	13,605	34	127%	43,094	29	122%	59,850	32	101%
合 計		36,590	100	121%	39,553	100	118%	149,710	100	110%	186,902	100	100%

備考 1. 上記実績は、会員会社「41社」の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

Gold Album +... 認定

2004年4月度

4月度ゴールドアルバム認定では、宇多田ヒカル「Utada Hikaru SINGLE COLLECTION VOL.1」が3ミリオンを、Mr.Children「シフクノオト」がミリオンを達成しました。

■ 邦楽

アルバム

● 3ミリオン				
Utada Hikaru SINGLE COLLECTION VOL.1	宇多田ヒカル	2004.03.31	TO	
● ミリオン				
シフクノオト	Mr.Children	2004.04.07	TF	
● ダブル・プラチナ				
LOVE PUNCH	大塚 愛	2004.03.31	AVT	
BLUE ～A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI	VARIOUS	2004.03.24	SE	
● プラチナ				
13/71 -THE BEST SELECTION	尾崎 豊	2004.04.21	SR	
一青想	一青 窈	2004.04.07	C	
● ゴールド				
BRAIDED	SOULHEAD	2004.04.28	AI	
GREEN ～A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI	VARIOUS	2004.03.24	SE	

シングル

● ダブル・プラチナ				
誰かの願いが叶うころ	宇多田ヒカル	2004.04.21	TO	
● プラチナ				
全てが僕の力になる!	くず	2004.03.17	YR	
彩～Aja～	サザンオールスターズ	2004.04.14	V	
● ゴールド				
涙	ケツメイシ	2004.04.21	TF	
OH JAPAN～OUR TIME IS NOW～	TMG	2004.03.31	BM	
SEVEN	中島美嘉	2004.04.07	AI	
アルエ	BUMP OF CHICKEN	2004.03.31	TF	
瞳をとじて	平井 堅	2004.04.28	DF	
ありがとうのうた	V6	2004.03.24	AVT	
生きとし生ける物へ	森山直太郎	2004.03.17	UM	

■ 洋楽

アルバム

● ゴールド				
コンフェッションズ	アッシャー	2004.03.24	BMG	
D12ワールド	D12	2004.04.24	UM	
冬の恋歌(ソナタ) Classics	Ho, Lee	2003.07.30	JK	
イマージュ4quatre	VARIOUS	2004.01.21	SI	

ビデオ

● ゴールド				
女子十二楽坊～日本初プレミアム演奏会～	女子十二楽坊	2003.12.26	PY	

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス/BG:ビーグラムレコーズ/BM:バーミリオンレコード/BMG:BMGファンハウス/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/JE:ジャニーズ・エンタテイメント/JK:ユナイテッド・アジアエンターテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MU:ドリーミュージック/ON:ビーヴィジョン/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PY:プラティア・エンタテインメント/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー・ジャパン



Utada Hikaru SINGLE COLLECTION VOL.1/
宇多田ヒカル



シフクノオト/ Mr.Children



LOVE PUNCH/大塚 愛



BLUE～A TRIBUTE TO YUTAKA OZAKI/
VARIOUS

ゴールド・アルバム他認定基準枚数一覧

洋楽・邦楽	略号	最低正味出荷枚数 アルバム/シングル
ゴールド	G	累計100,000以上
プラチナ	P	250,000
ダブル・プラチナ	PP	500,000
トリプル・プラチナ	PPP	750,000
ミリオン	M	1,000,000
2ミリオン	2M	2,000,000
3ミリオン	3M	3,000,000
4ミリオン	4M	4,000,000
5ミリオン	5M	5,000,000



誰かの願いが叶うころ/宇多田ヒカル

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

協会からのお知らせ

アメリカレコード協会 (RIAA) のウェブサイトでは、統計、違法行為対策、著作権に関する情報閲覧のほか、ゴールド・プラチナ認定作品の検索ができます。ぜひご利用ください。



<http://www.riaa.com>

Respect Our Music

THE RECORD No.535 2004年6月号

社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 依田 巽
編集人 田辺 攻
発行日 2004年6月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F
TEL. 03-3541-4411 (代) FAX. 03-3541-4460 (代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

編集後記

訪問学習の一環として、修学旅行生が当協会を訪問される機会が増えてきました。限られた時間ではありますが、CDができるまでにはたくさんの人が携わっていること、その1枚1枚を大切に聴いて欲しいということが少しでも伝えられればと思っています。

(R.O)